

土曜 ライフ・楽しむ

人生の旅人 夢を持ち楽しみます

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利



ベルイマン「老年は山登りに似ている。登れば登るほど息切れるが、視野はますます広がる」

人生は旅に、人は旅人に例えられます。夢を持って、視野を広げる旅をもう少し続けていきたいものです。

●斎藤茂太「できることが増えるより、楽しめることが増えるのがいい人生」

もし旅が無理なら、身近に楽しめることを増やさなければ、とも思っています。

2017年4月7日、コラム「わたし色」の連載が始まりました。2週に1度の担当で、特別紙面による休載があり、1年に22回、丸5年書かせていただきました。

またいつかどこかでお会いできることを夢見て、110回目を最終とさせていただきます。長い間のお付き合い、ありがとうございました。

高校卒業のとき、当時話題だった本、安川実(のちのミッキー安川)の「ふうらい坊留学記―日本青年、アメリカ西部を荒らす」(1960年)と小田実の「何でも見てやろう」(61年)にあこがれて、「俺もアメリカへ行く」と言った友人がいました。

大阪から夜行列車に乗り、羽田空港へ見送りに行った際、彼ほど勇気がなかった私は、「日本のことも知らずに何がアメリカだ。俺は日本を歩く」と宣言。ヒッチハイクをしながら日本中を旅して、結果全都道府県に小さな足跡を残すことになりました。

旅は好きです。名所旧跡を訪れるというよりは土地の人との交わりが一番の喜びでした。そこで新しい出会いと別れを経験するのも、人生における「出会い絶景」の一つだったのかもしれない。

今のコロナ禍が収まり、一日も早く世の中が落ち着いて以前の暮らしが戻り、近場でもいいので、気軽に出かけることのできる日常が待ち遠しくなりません。

残念ながら今は長い旅はままならないので、身近な目標は蘭越にある友人の山小屋、ニセコに住む画家と陶芸家のアトリエ、また道東に住む友人を訪れることだけです。もちろん途中の温泉も欠かせませんが。